

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年12月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105016
法人名	医療法人 浜友会
事業所名	グループホームはまゆう
所在地	鹿児島県鹿児島市喜入町6976番地1 (電話) 099-345-0099
自己評価作成日	令和4年12月2日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同じ敷地内の母体の医療機関と24時間医療連携体制が整っており、昼夜問わず入居者様、御家族、職員も安心して生活できている。

近隣には消防署、駐在所、市役所、小中学校、駅、銀行、郵便局、商店街などがあり、利便性に富んでいる。春は小学校の桜見物に散歩がてら出かけ入居者の楽しみとなっている。また自宅へ様子を見にヘルパーさんと行ったりして安心感が繋がっている。

毎日の免疫力アップの為のリハビリ体操は笑いを取り入れ、笑顔や言葉が増え楽しみの時間となっている。誕生会、イベントごとに理事長に手品を披露して頂き又、入居者様と職員で踊りを踊ったりして楽しんでいる。認知症の方をサポートする上で、定期的に研修に参加、ZOOMで研修を受講している。

住み慣れた喜入の地で認知症の専門的医療を受けながら生活できるホームである。また、孤独感を感じられないよう家庭的で落ち着いた環境の中で楽しく自分らしく生活できるホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市喜入地区の中心部に法人母体の医療機関や各種の在宅福祉の事業所に隣接して平成18年に設置されている。周辺には鹿児島市役所喜入支所や駐在所、郵便局、小・中学校、消防署、コンビニや多種の商店、個人住宅等があり利便性は十分である。法人本部を中心に、各事業所との連携や協力体制が十分に構築されており、事業所間の情報の共有が図られ、イベントの開催や職員研修、防災訓練等に一体的に取り組んでいる。協力医療機関(法人母体)は通常の診療に加え夜間や緊急時、看取りへの対応等、24時間医療連携体制が構築されて、利用者及び家族の信頼と安心に繋がっている。広い敷地には多種の樹木や草花が植えられ、日頃の散歩時には小学校や個人住宅の花も愛でるなど、利用者は四季を感じながら平穏に生活できる環境である。

開設以来、地域との交流を大切に取り組んでおり、自治会に加入して総会への出席や行事、清掃活動(年4回程度)等に積極的に参加し、自主的に道路の清掃にも取り組んでいる。また、施設見学や体験学習、ボランティアの受け入れ、友人知人の来訪、散歩や買い物時の会話、農産物の差し入れなど円滑な交流を築いており利用者の楽しみとなっているが、現在はコロナ禍に配慮してホームのイベントへの家族及び住民の参加やボランティアの受け入れ、施設見学等は控えている。地域の人からの認知症ケアや高齢者福祉についての相談には誠意をもって助言し、地域包括支援ネットワークの役員も担って地域活動に努めている。法人は津波災害時には地域住民の避難場所として施設を開放している。

管理者及び職員は理念に沿って、利用者が地域や家族と触れ合いながら、安全で生きがいのある暮らしの支援に取り組んでいる。利用者の尊厳や人格を大切に想いの汲み取りに努め自己決定を尊重しており、余暇時間の過ごし方等も利用者の意向に添って柔軟に対応し、洗濯物たたみや調理の手伝い等には感謝の言葉を伝えて生きがいや自己肯定感の修得を図っている。また、家族の意向の把握にも努めながら改善を図っており、家族の信頼度の高さがアンケートの結果からも窺える。

管理者及び職員は、協力及び信頼関係を大切に気軽に意見を言い合える関係づくりに努めており、日頃の業務の中や職員会議、個別面談等で要望や意見を出し合い、運営やサービスの向上を図っている。勤務シフトには有給休暇の取得の促進や個人的事情を可能な限り反映させるなど、働きやすい環境の整備に取り組んでおり、法人による給与体系や外部研修受講及び資格取得時の経費助成等の制度が整備されて、モチベーションの向上に繋がって職員の定着率は良い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	パンフレット、はまゆう便り家族会、推進会議、職員会議資料等に理念を載せている。また仕事開始前に理念を唱和する事で理念を深めている。	理念を玄関やリビング、事務室等に掲示すると共に、パンフレットやホームだより、各種の会議資料等にも記載し、職員は毎週月曜日の朝礼では唱和して周知を図っている。毎月の職員会議や日々の申し送り時に意義の確認やケアの振り返りを行って認識を共有しており、理念に添った利用者主体の支援の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍で感染を避けながら地域の方に呼びかけ推進会議に参加していただいたり、情報交換をしたりして交流している。又地域の清掃には参加している	コロナ禍の現在は、家族や友人等の面会は玄関でパーテーション越しで実施し、地域の清掃作業への参加や日頃の散歩時の住民との挨拶、農産物を頂くなどの交流を継続しているが、感染予防に配慮して家族や住民との交流を図るイベントは控え、利用者や職員のみで実施している。住民から寄せられる認知症や高齢者福祉についての相談等には専門性を活かして助言し、地域包括支援ネットワークの役員としても積極的に活動している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	母体の医療機関の居宅支援と連携しながら、地域の方の悩み事や相談事に応じ対応している。地域包括支援ネットワークの役員として参加活動している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の現状を報告、検討し質の向上につなげている。(地域包括、警察、自治会長、近隣の方等) 又、地域の情報交換の場となっている	会議は、自治会長、交番、市担当者等の出席で隔月毎に開催しホームの現況やヒヤリハット、課題等について報告や意見交換している。コロナ禍に配慮して書面会議が続いていたが、11月は8人の委員が出席してクリニックのホールで会議を開催している。書面会議時にも資料で状況を報告して意見要望を貰うように取り組んでおり、寄せられた意見等は、検討して運営やケアの向上に繋げており、結果は委員や家族にも報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿あんしん相談センター主催の研修（ZOOM）に参加したり、推進会議など協力関係を作り気軽に相談、連絡出来るようにしている	市喜入支所は徒歩数分と近いため、窓口に出向いて介護保険の代理申請や各種制度の申請・報告、感染症予防に関する協議、生活保護受給中の利用者（3人）の処遇に関する協議等を行い助言や指導を貰うなど、日頃から密に協力関係を築いている。WEB会議による市主催の会合や研修にも積極的に参加して運営やサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	機嫌、気分の悪い方、注意が必要な方に対しスタッフ間で声掛け見守りを行っている。 月1回の安全対策、職員会議やカンファレンス時に身体拘束について勉強会を行い意見交換、検討をしている	身体拘束の無いケアについては運営規定や重要事項、利用契約書に明記され、法人による計画的な研修（年2回）やホーム独自の研修の実施で認識を共有している。毎月「身体的拘束等適正化対策検討委員会」を開催し、日頃のケアの中でも言葉による拘束も含めて振り返りや意見交換等を行い、尊厳や個性、利用者の特性を大切に自由な生活のケアに努めている。不適切な言動には、その都度、助言し合って改善を図っており、人感センサーの使用については家族も理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し職員へ伝達している。職員会議、勉強会、検討会を行い、虐待防止に努めている。また言葉遣いについては、その都度お互い注意している。 職員の介護への悩みなど聞き検討する機会を作っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修（ZOOM）に参加し、勉強会を開いて学ぶ機会を持っている。それを活用できるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にホーム内を案内し、説明、同意書を頂いている。定期的に主治医、家族、管理者、担当者を交え意見や問題点を話し合い、改善に努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から入居者、家族の要望、相談事はその都度受け止めている。直ぐに解決出来る事はその日のうちに、他は職員会議で話し合い検討し解決している	利用者や家族には気軽に意見や要望を言い易い雰囲気づくりに日頃から配慮している。利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で汲み取り、家族からは面会（玄関でパーテーション越し）や電話、手紙等で、また、年4回発行の「はまゆう便り」でも日頃の状況を伝え、要望を把握するように努めている。職員は出された意見を職員会議等で検討して改善に取り組んでいる。現在家族会は中止している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、カンファレンス時はもとより、常日頃から意見を聞いて検討している。又院長、院長夫人へ報告し意見を頂いている	管理者及び職員は日頃からコミュニケーションにより信頼と協力関係の構築に努めており、日常のケアの中や職員会議、カンファレンス等で意見や要望等を出し合い、個人面談も随時行って改善を図っている。また、内容によっては法人本部にも相談して助言や提案を得ている。日頃からケアに対する助言や指導、研修の実施でスキルアップに努め、勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情にも配慮するなど働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人が生き生きと自信を持って働けるよう勤務時間の調整や気配りに心がけている。時に賃金について事務長に相談をしている。又院長夫人が職員のモチベーションアップの為に気を配っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の院内研修、外部研修に積極的に参加し質の向上に努め、その内容は他職員に伝える機会を作っている。又リモート研修やYouTube等で研修している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の勉強会に参加し意見交換、情報収集に努めている。また事業所内での勉強会、意見交換も行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホーム内を案内し、本人、家族と面談し生活習慣や環境を把握、不安に思っている事、要望等に耳を傾けることで安心して入居できるよう心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの介護経過の労を労い困りごと、不安、要望を伺い安心して頂けるよう声掛けを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医、本人、家族、前サービス担当者を交え、問題となる事柄等がないか検討をしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を介護される側としてではなく、家族の一員として介護を支え、入居者様が出来る事は手伝って頂き、共に助け合っている。また入居者様から学ぶ機会を頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではあるが、玄関先での面会が可能である為、面会時笑顔が見られている。健康状態、日常生活、特記事項等の説明を行い遠方の家族の方には電話、便り、メールで報告をし、安心して頂いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩時、知人の方に声掛けを頂いている。現在コロナ禍で地域の行事に参加することは出来ないが、玄関先で知人の方と会話を楽しんだり、自宅に帰ったり出来ている	家族や関係者からの情報で利用者毎の馴染みの人や場を共有しており、家族の意向も確認しながら支援している。コロナ禍に配慮しながら家族や友人との面会を実施し、散歩時には小学校や近辺の花を愛でたり、一時帰宅、訪問理・美容を楽しんでいるが、買い物や外食、家族との会食、墓参等は控えている。利用者の意向に沿って電話や手紙を取り次ぎ、「はまゆう便り」の送付等工夫して関係の継続に努めており、携帯電話を所有している利用者は日常の会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが取れる方は、席を近くにしたり、コミュニケーションが取れない方には職員が介入し、お互いの関わりが成立するよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が亡くなられた後も御家族の方が施設に寄って下さり、その際は傾聴し相談支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員との会話、行動の中で思い希望を引き出し職員会議等で共有している。困難な場合は家族との関りの中で情報を得ている	利用者の思いは日頃の会話や仕草、表情等から汲み取ることに日々努めており、家族にも確認しながらその人らしい安全で生きがいのある暮らしとなるよう取り組んでいる。利用者の意向に沿って縫い物や新聞購読、詩吟、テレビの視聴、周辺の散歩、洗濯物たたみ、炊事の手伝い等の取り組みを体調や残存能力に配慮しながら個別に支援し、選択肢も伝えながら意向を確認するなど自己決定や肯定感の習得に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサービス事業所からの情報や家族、本人との面談で把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活の中で表情、機嫌、バイタル、食事量、排泄等をチェックし、観察しながら状態把握に努め、1日を本人らしく過ごせるよう職員で共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がどう暮らしたいのかをしっかりと把握し本人、主治医、家族、栄養士、リハビリ等の協力も頂き検討し、プランに活かしている	利用者や家族の思いを日頃の関わりの中で把握し、主治医や理学療法士、栄養士の助言や指示、モニタリング時の職員の意見等を基に改善点を確認し、習慣や楽しみ事にも配慮した介護計画を作成している。計画は定期的な見直しのほか、状態の変化時には実態に沿って変更しており、内容は家族も理解している。ケアの実施状況は「業務日誌」や各種のチェック表等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録やチェック表を記録することで、日々の様子や体調を把握している。カンファレンスで職員間の情報共有、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に合わせて出来る限り対応している。職員での対応が困難な場合は院長、理事長に相談し対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員によるイベントで盛り上げたり、ボランティアによる歌声フラ・コーヒー療法・お寺参り（ZOOM）等を実施し、時には外出支援を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナ禍で他病院受診できない状況ではあるが、家族希望者には感染予防をし受診をしている	利用者毎に病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受診を支援している。現在は殆どの利用者が協力医療機関を主治医としており、定期的な訪問診療（月2回）が実施され、また、専門医の受診は家族と連携して同行するなど適切な医療が受けられている。日常的に健康管理が徹底され、敷地内の協力医療機関との24時間連携体制も構築されて、利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>早期発見に努め、看護師不在でもすぐ対応できるよう、クリニックと連携している。入居者一人一人へのアドバイス等もカンファレンスやその都度行っている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院先の主治医、ソーシャルワーカーと連絡を取ったり、家族へ連絡し情報収集を行っている。退院前には主治医、家族を交えて退院後の対応や職員、入居者様の不安等についても話し検討している</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居前や定期的に終末期について説明、同意を頂いている。急変時は本人、家族、主治医、職員間で担当者会議を行い、穏やかに終末を迎えられるよう支援している</p>	<p>重度化や終末期の対応は、入所時や必要に応じて本人や家族に説明して理解を得ており、看取りに対しては指針を整備し意志確認書を貰っている。利用者が重度化した時点で主治医や家族と十分に話し合いを実施して可能な限り希望に添った支援に取り組んでおり、本年度も4人の看取りを実施している。昨年、目標達成計画に掲げ急変や応急手当、看取りに関する研修も実施して職員のスキルアップや不安感の軽減を図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に訓練・勉強会を行っている。他部署から上がったインシデントやアクシデント等の内容も確認し共有している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>病院、隣接の施設と合同訓練を行ったり夜間想定訓練を行っている。地域の方にも声掛けし協力を貰っている</p>	<p>年2回（本年度はコロナ禍により消防署立ち合いは無し）夜間を含む火災や風水害を想定した通報や避難訓練、消火訓練を実施し、通報や消火器等の取扱いの研修も行っている。法人全体で年1回防災訓練も実施し、日頃から被災事例を話題にして災害対策の認識を深めており、地域との協力体制（災害時の利用者見守り等）も築いている。スプリンクラーや自動通報装置等の設置や連絡網を整備し、災害時の備品や医薬品、介護用品、食料、飲料水をリストを作成して備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや介助方法など、その方が嫌な思いをしないよう、個人を尊重したケアを実施している。職員会議等でプライバシー保護、個人を尊重したケアを実践するよう話し合っている	人格の尊重やプライバシー確保については研修の実施やケアの振り返り、意見交換等で認識を図り、前年度は目標達成計画にも掲げて適切なケアの実践に取り組んでいる。利用者の習慣や思い、特性を大切に、尊厳を損ねる言葉や対応を行わないように日々努めており、居室やトイレ、浴室等はプライバシーの確保に配慮した構造になっている。入室時には声掛けやノックを励行し、衣服の選択や入浴時間等も柔軟に対応するなど利用者の思いや自己決定を尊重しており、利用者に関する帳票等も適切に管理されている。BCPについては現在作成中である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の行動や表情等を把握し、本人に聞いたり、本人のペースに合わせながら対応している。また職員が援助しながら出来るだけ本人に決めて頂くようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調、行動を把握し食事や入浴、行事等調整している。また入居者様のペースに合わせた支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の希望を聞きながら服を選べるよう工夫したり、スキンケアが出来る方には自分でして頂いている。又、髪型も本人に決めて頂いている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶を入れたり、野菜の皮むき、御盆拭き等出来る方にはお願いし又、後片付け等出来る方には感謝の気持ちを伝えながらお願いしている。また旬の食材で会話が弾むようにしたり、楽しみが得られるよう配慮している	日頃から好みや栄養バランス、形態、季節感、アレルギー、疾病による制限等に配慮したメニューを法人の栄養士が作成している。お節や彼岸、敬老会などの行事食や誕生会やお楽しみ会の仕出し、手作りのおやつ、玄関先でのお茶等、食事が楽しみとなるよう工夫し、利用者も食材の下処理や片付けを楽しみながら行っている。職員も傍で同じ食事を摂っており、味付けや食材等を話題に歓談している。現在はコロナ禍に配慮して外食や家族との会食等は控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の食事、水分の摂取量を記録し、それに伴う対応に常に気を付けている。又体重の増減、身体状況に合わせ食事量、食事形態、水分量の調整をしている。必要に応じ栄養士、主治医に報告、相談をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔嚙下体操から食後の口腔衛生の重要性を声に出して伝え、支援、見守りをしている。定期的に歯科衛生士による口腔ケアアドバイスをお願いし職員もアドバイスを聞いている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の訴えのできる方には直ぐに対応、できない方は個々の排泄パターンを把握し、定期的に誘導し出来るだけおむつをしないで済むように自立に向けた支援をしている。また排泄チェック表を付け排泄パターンを把握している	各利用者の排泄パターンをチェック表で把握し、身体状況や習慣に配慮した声掛け等で可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者の状態に応じた介護用品や交換の目安等を介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、オムツの消費量の減少も見られている。また、便秘の予防には食物繊維の多い食材や水分の摂取、運動に配慮し、主治医にも相談して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表で食事量、水分量、運動、排便間隔を確認し個々に応じた対応をしている。排便を促す食べ物も工夫している。また、排便困難時は主治医に相談したり、リビング内を運動したり、散歩による運動も実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個々の思いを尊重しつつ、入浴チェック表を参考に声掛けし入浴して頂いている。入浴願望のある方に対しては優先的に入浴して頂き、拒否の方は、職員を変えたり、笑いを入れながら対応している。	週3回の入浴を基本としているが、必要に応じて温タオルやシャワー浴等で清潔を保っている。入浴時の温度や時間、習慣、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し個浴でゆっくり楽しんでもらっており、入浴後はアルカリイオン水やお茶での水分補給や軟膏の塗布等を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いしないで、時間・職員の変更や声かけ等を工夫し、気持ちを汲み取りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の生活習慣や身体的な様子を伺い、声掛けをしながら安心して眠れるよう支援している。また、体位、衣類調整、照明など配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用量等についてカンファレンス時説明している。臨時薬はその都度申送りで伝え、服薬後の状態観察や変化を細かくチェックし、誤飲しないようダブルチェックし、服薬支援は声に出して提供している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の身体機能や好みを把握し遊びへの提供、促しを行うようにしそれが各個人の喜びとなるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではあるが、その日の体調や天候を見て出来るだけ散歩に出て、日光浴、気分転換を図っている。又自宅に帰りたい入居者様へは、ヘルパーさんの援助を貰い帰宅できている	コロナ禍により外出計画が実施出来ない状況もあるが、利用者の状態に応じた介助で園庭での日光浴や周辺の散歩時に小学校や近隣住宅の花を日常的に楽しんでいる。帰宅願望の利用者にはヘルパーの同行で一時帰宅を支援しているが、全員での買い物、外食、ドライブ等は控えている。室内での軽い体操や音楽・ビデオの視聴、コーヒー療法、職員との踊り、理事長の手品等、工夫した取り組みでリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金、通帳の管理が出来る方には持って頂き、安心に繋げ、その際は家族に説明・確認している。又入居者様の希望を伺い、欲しい物等の買い物支援をしている。お金の管理、家族への収支報告は定期的に行っている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話が使用出来る方は家族と会話して頂き、電話が聞き取れない方には耳元で伝えたり、筆談などで支援している</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関先には植物や花を植え、花を見ながら玄関先でお茶を飲んだり、リビングには季節の花を飾り季節感を感じて頂いている。壁には季節ごとの作品を入居者様と一緒に作成し掲示している。空気清浄機、除湿器を置き配慮している。換気は常時行い、消毒は時間を決め行い入居者様が居心地良く過ごせるように援助している</p>	<p>利用者が昼間の殆どを過ごす廊下やリビングは天窓のある構造で明るく広いスペースが確保されて開放感に満ちている。園庭やホームの玄関には多くの樹木や草花が植えられており、リビングをはじめ共有空間には活花や季節に応じた利用者の作品、写真等が随所に飾られて和やかな雰囲気になっている。テーブルセットやテレビ、ソファ、空気清浄機等が利用者の動線や利便性に配慮して備えられ、トイレには手すりの設置や大きな文字での表示がされている。室温、湿度、整理整頓、衛生管理も徹底されて、利用者は好みの場所で寛いで過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>会話の出来る方は同じテーブルで会話を楽しんだり、一緒にテレビを見たり、お茶を飲んだりしている。出来ない方へは職員が介入し支援している。洗濯物を畳んで頂いたり、塗り絵をしたり、居室で趣味を楽しむなど、本人の思いを尊重しながら声掛けしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に使用していた品物、家財電気製品など持ち込んで頂き、安心してゆったりと過ごせるように支援している</p>	<p>居室はフローリングと畳部屋（2部屋）があり利用者の状況に応じて入居してもらっている。腰高窓で明るく余裕ある広さが確保され、ベッド、エアコン、タンスが備えられている。利用者は自宅で愛用していた寝具やテレビ、CDラジカセ、家族写真、位牌等を持ち込み、誕生日や長寿祝いで頂いた品物も飾って、家庭同様に落ち着ける雰囲気のある居室となっている。居室の表示については入居時に意向を確認している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の残存機能を把握し、低下させることのないよう、入居者様の出来る事を活かし、出来るだけ自立した生活が送れるよう職員で検討し工夫している</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1	ほぼ全ての利用者の
		2	利用者の2/3くらいの
		3	利用者の1/3くらいの
		4	ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1	毎日ある
		2	数日に1回程度ある
		3	たまにある
		4	ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない